

分類	連携パターン	他の施策（防災、防犯など）との連携	—
		他の機関（他の自治体、警察、学校、企業など）との連携	○
		市民やNPOとの連携	—
	事業分類	11. 交通安全運動の実施	

【事例 16】シートベルト・チャイルドシート着用指導（北海道留萌市）

子どもと大人と一緒に交通安全活動（通過車両へ旗振りや声掛け等の実施）をすることで、子ども・大人双方の意識啓発を実現

1. 取り組みの概要

（1）取り組みの背景と目的

- 交通安全の意識の向上のために取り組んでいる。特に、市民参加型の交通安全運動を目指しており、町内会はもとより、子どもにも参加してもらうことで、大人と子ども両方の交通安全の意識向上を目指した。

（2）取り組み内容

- 国道に近い保育園に協力を呼び掛けた。国道に面した歩道上に、大人 23 名（交通安全推進協議会員）と園児 22 名（年長）が立ち、大人は啓発看板を持ち、園児たちは小旗等を振って、通過する車両に交通安全（速度遵守等）を呼びかけた。

（3）連携先機関

- 交通安全期間の前に、警察と取組内容を相談しており、この取組にも警察側の担当者（1～2 名）が参加した。

（4）事業体制

- 予算はかかっていないが、交通安全協会や市が所有している啓発看板や小旗を使用した。市側の担当者は 1 名。

2. 取り組みの成果・効果

（1）実績

- 交通安全運動の一環として初めて実施した。期間は平成 23 年 9 月 16 日（1 日）である。

（2）成果

- 特に市側から依頼したわけではないが、時には、子どもが「スピード落として！」等と大声を出して頑張っている姿に、通過する車両のドライバーも自然と笑みが浮かび、気持ちに余裕を持つことができ、安全運転に繋がっていた。

- ・大人（推進協議会役員等）も子どもたちと協力して交通安全運動に取り組むことで、より積極的に取り組むようになった。また、大人ばかりでは声を出して意識啓発する等のアイデアが思いつかなかったが、子どもならではのアイデアで実施できた活動内容であった。

3. 取り組みにおける課題・留意点と工夫点

（1）課題・留意点

- ・市内には、幼稚園（2つ）、保育園（3つ）があるが、国道に近い保育園は1つのみであり、国道から遠い幼稚園、保育園は移動手段を確保しなくてはならないこと等（バスの利用等が必要）から、この取組への参加は難しい。協力を得られる幼稚園、保育園の地理的制約がある。
- ・ただし、国道から遠い幼稚園等でも交通安全に係る意識を高めてもらうため、また、高齢者の交通事故が増えているため、幼稚園等で、警察官扮する交通ヒーローが、子ども（交通安全についての理解が得られる年長の子ども）に、反射材を配布し、敬老の日に、子ども（孫）から祖父母に反射材を渡してもらった。子どもは交通ヒーローが登場して盛り上がるとともに、高齢者も孫からもらった反射材となると身につけるようになる。

（2）取り組みにおける工夫点

- ・国道に面した歩道に立ってもらうため、安全面や交通安全に係る理解面を考え、年長の子どもに参加してもらった。
- ・園児にあまり長い時間、協力してもらうことは難しいため、約20分程度でやめてもらった。また、子どもが大人と同じ看板を持つことは難しいため、子ども用に、小旗を用意した。子どもが主体となる交通安全活動を実施する際には、子どもならではの点を考慮する必要がある。

4. 取り組みの状況

【当日の様子】





市町村人口 (平成 23 年 3 月 31 日)	交通安全担当職員数		
	専任	兼任	計
24,489 人	0	4	4
年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
交通事故件数	52	44	38

【本件連絡先】
 北海道留萌市
 総務部総務課危機対策係
 0164-56-5005